

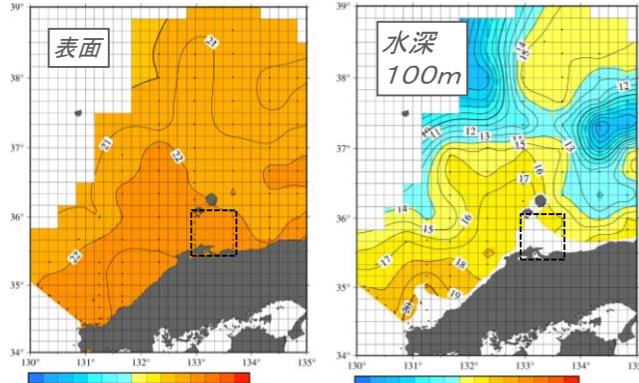
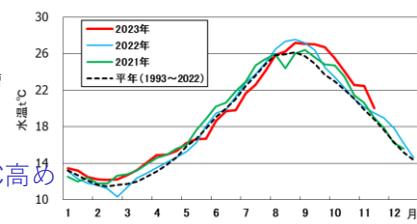


鳥取沿岸の水温

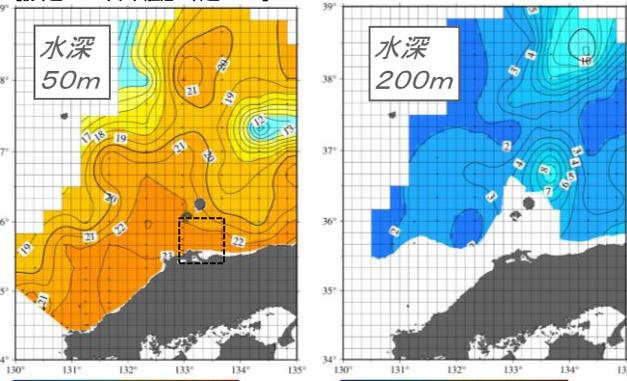
鳥取県栽培漁業センター 沈砂槽

(電話:0858-34-3321)

11月中旬 20.0℃  
0年より 1.2℃高め



隠岐海峡と鳥取県沖(点線範囲内)の平均水温は22.6℃(21.9～22.8℃)を示しています。【前年差:+2.1℃、平均(直近30年)差:+1.7℃】



平均水温は22.4℃(20.7～22.8℃)を示しています。【前年差:+2.1℃、平均(直近30年)差:+1.6℃】

隠岐諸島北東方N36°40'付近に8℃以上を示す暖水塊、N38°10'付近に10℃以上を示す暖水塊があります。

水産試験場

日本海かにかご漁業協会とのベニズワイかにかご調査について

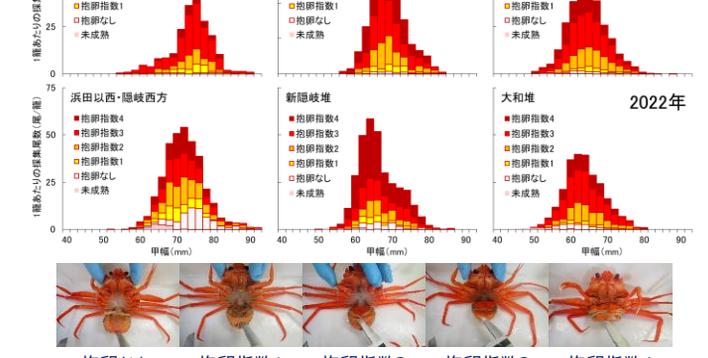
2007年から当場では、日本海かにかご漁業協会のかにかご網共同調査を実施しています。当初は、脱出リング付きのかにかごの小型ガニ保護効果を把握することを目的としており、『脱出リング付きのかにかごにより漁獲対象外の小型ガニの約9割を逃がすことができる』ことを調査により確認しています。

2021年からは、かにかご調査の目的を近い将来の漁況予測に移行していますが、今回はこれまであまり調査結果として解析出来ていなかったメスガニの結果について紹介します。

下図に2022,23年の調査結果を示します。まず注目していただきたい点として、浜田以西・隠岐西方海域のメスの甲幅が他海域に比べ大きいことが挙げられます。どの海域も抱卵するメスガニの脱皮齢(脱皮回数)は同じですので、この成長の差は海域特性であり、実はオスの漁獲物にもこの傾向が見られます。

次に、2022年に比べ、2023年は濃い赤や赤のたくさん抱卵しているメスの割合が浜田以西・隠岐西方海域で増加しています。これは十分に貯精嚢に精子を保有できるメスが増えたと考えられます。水揚げに関しても2021年から当海域は回復基調にあり、爪の大きい成熟したオスの割合も増加しています。

ベニズワイかにかご漁では、メスガニの採捕は禁止されており、メスガニの状況を把握できるのは試験操業のみとなりますので、引き続き知見の蓄積に努めます。



抱卵なし 抱卵指数1 抱卵指数2 抱卵指数3 抱卵指数4

令和5年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

**西日本ニチモウ株式会社**

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136  
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424  
境港営業所 鳥取県境港市栄町67番地 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330

### 10月下旬の水塊配置と対馬暖流

|            |   |
|------------|---|
| 鳥取県冷水域     | 鳥取県N37°以北に冷水域(13℃以下)が認められます。  |
| 隠岐諸島北方の冷水域 | 鳥取県冷水域の一部がN37°20'以北に認められます。   |
| 山陰・若狭沖の冷水域 | 鳥取県東部沖 N36°10'以北に冷水域(13℃以下)が認められます。   |
| 対馬暖流の流路    | 主流は朝鮮半島東岸に沿って北方に向かい流れると考えられます。主流の一部は、鳥取県冷水域に沿って流れ、隠岐諸島北方では北東に向かい流れると考えられます。一部の分枝は、山陰・若狭沖冷水域に沿って流れ、鳥取県東部沖ではN36°付近を東方に向かい流れる可能性があります。 |

水産振興課・漁業調整課

県東部でイベント開催!

11月6日(月)に今シーズンのズワイガニ漁が解禁になりました。田後港では11月11日(土)に大漁感謝祭が、マリンピア賀露では11月18日(土)に4年ぶりの鳥取かにフェスタ2023が開催されました。

田後の大漁感謝祭では、名物のせり市(鮮魚販売)、ピンゴゲーム等が行われ、今年はゆて親がに500枚の無料配布もありました。当日は気温が低く、悪天候でしたが、朝早くから多くの方が訪れ、大盛況でした。



親がにを買い求める人々(田後)

一方、賀露の鳥取かにフェスタ2023では、ズワイガニ販売を始め、親がに釣りや赤イカの解体ショー、ピンゴ大会といった来場者参加型のイベントが盛りだくさんでした。また、親がにの半身と大根が入った「かに汁」が、午前と午後合わせて計1000杯振る舞われました。当日は大変多くの来場者により、会場は大変賑わいました。



親がに釣りに奮闘する子供たち(賀露)

コロナ禍が明けて、続々と水産関連のイベントが復活してきています。イベント再開を機に、地元水産物の消費が拡大していくことを期待したいです。

栽培漁業センター

イワガキ増殖場再生に向けた移設試験を実施

「食パラダイス鳥取県」を代表する夏の産品、天然イワガキ「夏輝(なつき)」の増殖場を再生するため、当センターでは、令和5年9月下旬～10月中旬に、県内4か所(網代、夏泊、泊、赤碕)のイワガキ礁にて、礁の移設試験を行いました。

これまで礁が設置されていた転石域は、肉食性稚貝による食害の影響が大きいことから、礁を砂と岩礁との境界である潮際に移設することで、付着した稚貝の生存率を高め、漁獲につながる事を目指しています。

今後、稚貝の付着状況を確認しながら、試験地区での本格移設について検討を進めていく予定です。



つり上げた礁に再び稚貝が付着するよう、礁の面を丁寧に掃除します  
カキの幼生が多い時期に掃除した礁を潮際に再設置します  
再設置された礁

潮に夢を **共和水産株式会社**  
代表取締役 橋津 寛  
〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地  
TEL:0859-44-7171(代) FAX 0859-42-6530